

信州大學

山森余
77年度

無雪期報告書

6~10月



S. Kishimoto

目次 もくじ

No.

Date

- 6月 蝶ヶ岳～常念岳 “翔べ雷鳥” 1p～
有明山 “山@V屋”
錫杖岳
南ハルヶ岳縦走 “下品にいい”
唐沢岳幕岩
常念岳
- 7月 笛吹川 釜ノ沢 “お祭り台大滝” 7p～
北岳バットレス
白馬岳
折立～雲ノ平～ブナ立 “アガテンノコラギ”
中ノ・中御所谷 西横川
- 8月 縦走合宿 北アルプス “日本海エッジ” 12p～
“南アルプス全山” “マニアワールド”
“北海道” “大雪は今日も雨”
“北アルプス” “ゴールデンコースがっていい”
“南アルプス” “尻尾が折れている!”
屏風岩東壁
瑞穂山十一面岩
- 9月 北岳バットレス 36p～
奥秩父・奥多摩縦走 “帰郷”
明星南壁
丸山東壁
明星南壁
- 10月 黒部下ノ廊下 “紅葉の散歩道” 41p～
～中止になった山行～ 42p～

蝶ヶ岳 ~ 常念岳 6/4.15

L 小林 茂幹(II) 岡本伸也(I) 岸本俊朗(I) 深沢 遊(I)

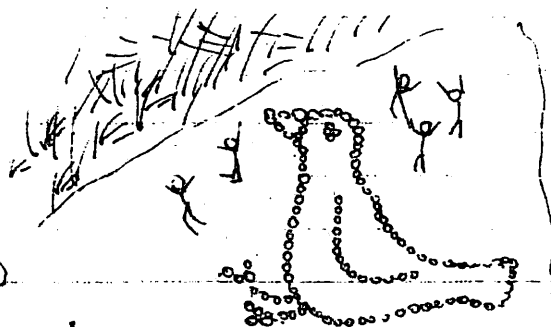
喜田 荘一(I)

- 6/4 6:00 ① 松本から 三股着。 何度も車の底をさす。
 2essenの充塞の反動で、一泊には重いザックに
 みえいで登る。途中、フラビを死ぬほど擦る。
 10:35 ② 蝶ヶ岳着。 見はらし悪し。 その上、「ひょう」が
 降る。
 13:30 ③ ティン^代喝を私えないので、常念側には1Pほどのコル(沼有り)
 まで進むことに決の。 お昼寝。
 14:40 ④ コル着。 幕営。 スキヤキとビールで 食いごき。

- 6/15 4:25 起床
 5:35 ① 出発
 8:10 ① 常念着。 全員、上半身裸になり、女性に
 ママターを押しもらう。 時間があるので、頂上から
 20mほど北西に降りた斜面の雷ヶ岳に、石で
 雷鳥を描く。 巧みうまく描けなかった。
 11:10 ② 頂上を去る。
 12:00 ① 前常念
 15:00 ① 三股着。

感想

水代もチチって下から上げため、重くなってしまった。 もっと軽く歩きたい
 気分だった。 常念では、岡本がキタイ尿を出して、女性を遠くで
 していた。 前常念から三股間は、ヒザを故障している小林には
 かなりキツかった。



有明山

三歳平松と孫水郷

日程 6/14 (1+0)

メンバー: L 麦谷 平松 (部外者)

9:00 中房温泉着

9:40 登山口

12:00 山頂

1:00 下山開始

3:10 中房温泉着



6/14 は平松 由布子のお誕生日♡。そんな日にうんこを踏む彼女はかなりうんのいい奴。彼女がうんこのにおいを漂わせて歩く後ろを僕は鼻をつまみながらついて行く。中房温泉側からの登山道はあまり整備されておらず、やぶこぎちっくであったが、山頂はあぶめのが見渡せ、いい景色。そして僕らは20歳の誕生日を祝ったが、彼女は本当に下人の仲間入りができるであろうか。僕はもう少し短気が直って彼女が下人になるのを願う。

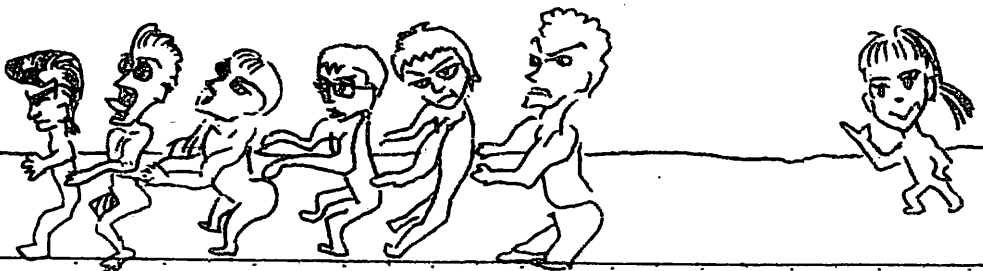
南八ヶ岳縦走 (野田 川井 大木 岸本 佐々木 高橋 島)

6月20日 (晴れのちガス)

4時BOX発 6時50分小松山荘 8時55分赤岳鉱泉 10時40分赤岩ノ頭 11時20分 オーレン小屋
 テントを張り天狗岳ピストンする 13時40分東天狗岳 14時西天狗 露出狂とパイナップルを食べる。
 15時半オーレン小屋 ビール片手に食いごき。

21日 (晴れ)

4時起床 5時45分発 6時05分夏沢峠 7時 横岳 9時半赤岳展望荘 10時20分赤岳山頂着 冷えた
 すいかがうまい。高橋は一人大量な生ゴミを前にプツプツ呟いていた。12時40分 阿弥陀岳 13時50分行
 者小屋 15時美濃戸口



とくろ 6/14.15(16)

No.

Date

花谷 山内 麦谷 中島
(14.15) (14.15) (15) (15)

錫杖岳前衛フェース (島帽子岩) 左カテ 21ル=0"

花谷(14) 山内(15) 麦谷(15) 中島(15) 6/14~16 (2+1)

6/14 (花谷, 山内のみ)

松本 5:10 ~ 7:25 槍見温泉 ~ 8:30 錫杖岩小屋 B.C O

9:0 左カテ取付 9:30 ~ 14:00 終了 16:20 取付. 17:00 B.C A.

久々の本チャンで緊張した。早く終わった。下降中はヒョウが降、2時7.ニヤけた。

6/15

花谷-中島 山内-麦谷で左カテ (1ル=0は都合で行けなかった)

9:45 登山開始 13:45 終了

月ルート下降後 16:00 取付. 16:30 B.C A.

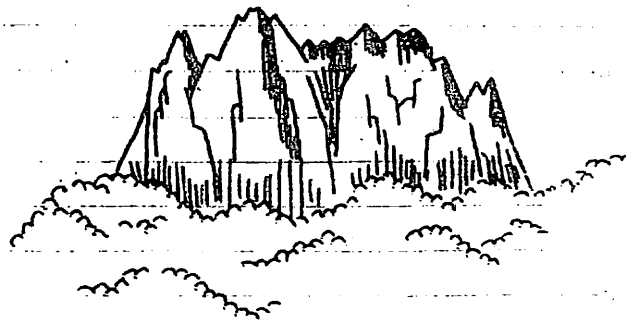
2人の2年生は(特に中島は)久々の本チャンだった。全然、問題なく

登、ついた。山内、麦谷パーティは4時をAルートから行き、悲鳴の間を

えり事しはいる。我々花谷、中島パーティは天候にのり、2.3ルートでヒョウ

状道下った。

4日目の左カテは4時前からエルトカテといひに行きたが、ピンがほく、核心部がみだつていて恐怖を感じ、時間がかかった。後でみるとこのラインは以前立ちてくれた人かいてとけ以来あまり登らないう事だ。もう二度と行く事はないでしょう。この日はエルト行く予定だったが、中にかマールのアテを忘れたので2ルで左カテにした。露店ぶりはよかった。



唐沢岳幕岩大凹角ルート

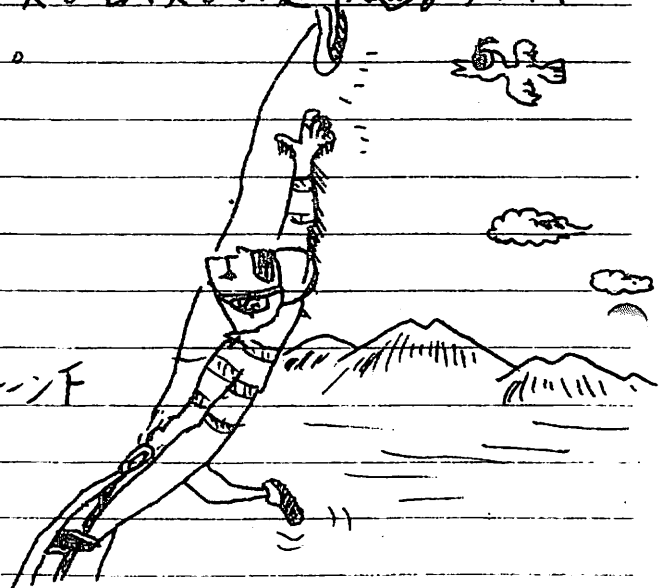
日程 6/21 ~ 6/23 (2+1)

メンバー L 妻谷 花谷 田中 中島

6/21 11:00 Box 発
 1:00 高瀬 4人着
 1:15 高瀬 4人発
 4:30 大町の宿着

大町の宿にはたれもからが4人で占領でき、超快適。おみやぎをたらふく食べてその日は寝る。

6/22 4:15 起床
 5:00 大町の宿発
 5:45 取付着
 6:15 登はん開始
 11:30 上部クワックストーンF
 2:45 頂上
 5:20 大町の宿着



取付に着いて行くと岩が濡れており、どうしようきのかの迷うが、天気もちょうどだし、上部はきっと乾いているに違いないと半手に判断し、登はんを開始する。7Pまでは濡れてほいるもの、おいて問題なくいけたが、早朝目の下キムニー下のフェースがA1のはずなのにピトニに届かず、とちがっていたと云う。後方の花谷、田中の田中が腐っているが

どうも分からないシエリングに飛べつかい常破する。腹続者も長いシエリングをこなしてもらい無事登山を終了できたが大町の宿に着いたのが5時を過ぎていたため、これから下りるのは危険だと判断して大町の宿にもう一泊する。

1/23 5:20 起床

6:00 発

11:15 高瀬ダム

行きのアローチで高巻道を通ってきたが、結構危険であったので帰りは金時の滝横のルンゼを通ろうとするが、その道に迷ったり、フックスロープが腐っていたので懸垂したりしたら、時間がかかってしまい、下山報告をしたのが、終下山時刻の3時間ちょっと手前になってしまった。

<反省点>

今回の山行は数多くの反省が残る山行で他の現役部員にはいろいろな迷惑をかけたしまった。その反省点は……

- ・濡れた岩を登るべきではなかった。
- ・予備日を使うのなら起床をもっと早くすべきだった。
- ・一度通った高巻道で帰るべきだった。

であるが以上の反省を今後の山行に活かす。二度とこのようにことがないよう心がけたい。

常念岳

6月22日～23日(奥勤1, 予備1) 川村朋子, 平松由布子

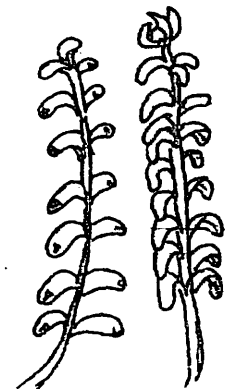
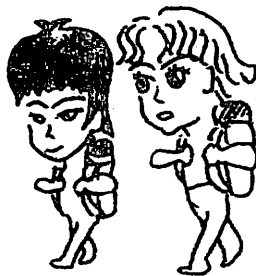
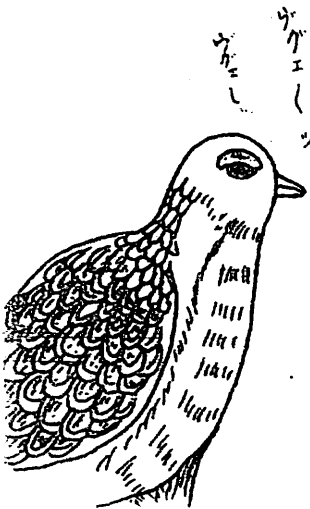
前日6月21日 茂さんに一沢石竹防ダムまで300mぐらいの地点に車を送ってもらう。

6/22 5:06 1200m付近出発 → 5:23 冷沢小屋 →
5:51 1275m 山の神(1本) → 6:57 1730m付近(1本)
晴れ。17カガミが咲いていた。 → 8:09 1995m付近(1本)
沢のほとり。702リ3本咲いていた。+アオハツガサケも咲いていた。 →
9:50 常念小屋(大休止) ぐもり。10:30 発 →
11:42 常念岳 ぐもり シヤクナ(キバツ), エビノクにやられた。
ライクヨウ4羽にあり。(1本) → 12:55 前常念岳 17カ →
13:06 避難小屋 ギンリョウソウ みつける。殊に美しいです。 →
15:43 三股 → 15:56 三股駐車場 1410m 優しいおし
さま2人組に。おめとヨクイトをもらう。ありがとう。

感想

三股駐車場～松本 しげんの車。しげんありがとう。
今回は常念岳というだけで、いっせ松本から眺めていた山だっただけに、なかなかうれしいものがありました。あいにく、金中から天気が悪くなりガスが出てきたため、ながめはよくなかった。(松本方面)しかし、横尾近辺はほらちりみえたし、よい山行でした。702リやレンゲツツシ、ギンリョウソウ なんかも見えたり。

(川村)



笛吹川 釜ノ沢 7/16.17.

小林茂幹(II) 原田亮介(II) 大須賀友一(I) 福士知史(I)

7/16 松本から車で広瀬松の林道終点まで。

20:00 ~ 23:30 ①

7/17 5:00 ② 起床・出発

林道へ行き、橋を渡り、河原に降りる。

“オラ”貝のゴルゴロは、すでに巻いていると思っていたが、
しかりぶち当り、その姿に驚嘆する。再び巻き、
タイムロスが気になる。

8:30 ③ 山ノ神着。激しい雨ではなかったが、また、
どこからでも尾根に取り付くため、進むことにする。
“千量のナメ”で歓声をあげる。晴れた日に
歩きたかった。

12:00 ④ 甲武信小屋着。原田、福士の甲武信岳レストン。
小林、大須賀は小屋の中でふるえていた。

13:20 ⑤ 近丸新道下山。

16:30 ⑥ 車まで下山。

感想

小林は二度目であったが、やはり名谷だと感じた。
しかし、雨は沢の気分を暗くさせ、盛り下げる。
滝のすべり台は心が踊る。体が踊る。

ドライバーが小林だけであったから、下山後、乗車して3分で
他の3人が撮り終えたのにはガクゼンとした。
その後40分ほどで、軽く道路を再び出し、車をぶつけた
ところ（居眠り）である。このあたり。

スベり台

ウキ

釜

千量のナメ



北岳バットレス

7/18 ~ 22 (3日+2)

CL 原田亮介 (3)
川井 紘 (2)
小林 茂幹 (2)
野田 賤 (2)
中島 辰茂 (2)

7/18 広河原 13:50 ~ 15:40 白根御池 BC

7/19 起床 300 BC 3:50 ~ 4:05 取り付き

・原田, 中島, 野田 パーティー 4:40 → 12:30
下部 77ヶ所 ~ 上部 77ヶ所

・小林, 川井 パーティー 4:30 → 15:30
下部 77ヶ所 ~ Dガリ-奥壁

(山頂之合流) 北岳 16:00 ~ 17:10 BC

3連休といつともありバットレスは大混雑。1分おきに落石。時間待ち大いにあり。そんな中で汗だりした。山頂でスイカも食べる。(はは)

7/20 起床 5:00 BC 6:10 ~ 7:30 広河原

芦原にてまた新しい人工屋で遊んで帰る。

7月19.20日 白馬岳

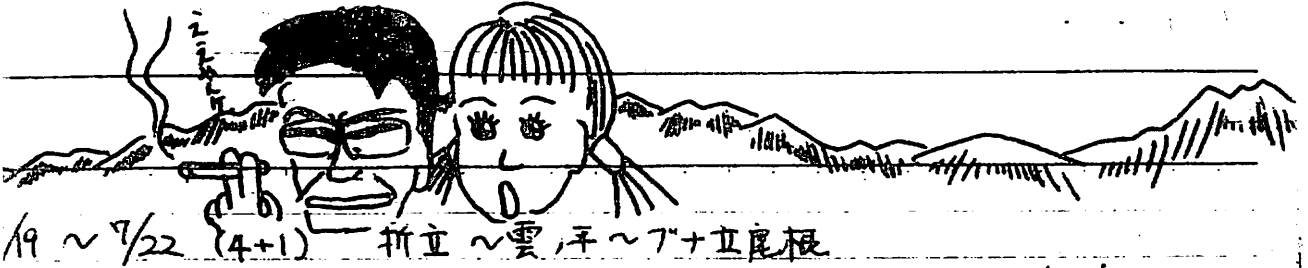
L 場 大木 高橋 大須賀

19日 3:00 Box 集台
 5:20 猿倉荘
 5:45 出発
 7:25 大雪溪
 9:50 頂上宿舎
 10:55 白馬岳山頂
 11:25 頂上宿舎
 1:25 鍾ヶ岳山頂
 3:35 鍾温泉 T.S

白馬大雪溪は人が蟻の行列のように
 歩き、週末に行くと人が多すぎる。
 頂上宿舎のビールは一本千円なので
 下界から持っていく方がよい。
 鍾温泉はすばらしいが、どこからも
 丸見えなので昼は入りないうちが
 いい。体の一部に自信がある人は
 いつてもどうぞ。

20日 3:00 温泉に入る
 4:30 起床 掃除機をかける。
 以後 30分ごとに繰り返す。
 7:00 起床
 7:30 出発
 10:20 猿倉荘

早朝 誰もいない温泉に入る。
 とってもリフレッシュ。温泉から
 3時間で下山できるのんびり
 できる。ここから見る御来光も
 とってもすばらしい。
 歩きやた。一泊二日の山行の
 最高のコースでした。



L 田中基樹 (2)

大藤洋子 (W)

7/19 (土) A16:50 折立発 ~ 7:37 本 7:51 出発 ~ 8:37 (180m の三角点) 8:55 出発 ~
 9:41 一本 9:55 出発 ~ 10:44 一本 (大御平補) 11:07 出発 ~ 11:40 大御平尾 12:00 出発 ~
 12:54 一本 (薬師沢) 13:30 出発 ~ 14:58 一本 15:04 出発 ~ 16:18 カバノケ原 T. 止

前夜、妻谷に折立まで送ってもらったので、たか途中、T-1が用、いて、
 妻谷ととも一泊することになる。薬師沢まで降りてくると、標の真持や
 良文に、25リたぐり、した。カバノケ原でテニ場とエカマの小屋がある。

7/20 (日) 3:14 起床 4:40 出発 ~ 4:52 薬師沢小屋 5:10 出発 ~ 5:58 一本 6:20 出発
 ~ 7:10 一本 (雲平アラスカ庭園) 7:40 出発 ~ 8:30 一本 9:00 出発 ~ 10:00 一本
 (雲平山荘) 10:15 出発 ~ 10:45 雲平 T. 止

今日は、雲平で、のんびりしたため、行動を、はやめに切り上げた。
 雲平は、いいところ。

7/21 (月) 6:15 起床 7:40 出発 ~ 8:38 祖父岳 peak 8:58 出発 ~ 9:36 岩谷集越
 9:55 出発 ~ 10:46 水晶小屋 11:15 出発 ~ 水晶岳 peak 11:45 12:12 出発
 ~ 12:45 水晶小屋 13:00 出発 ~ 14:00 真砂岳 午前 14:12 出発 ~
 15:07 真砂岳 peak 15:18 出発 ~ 15:53 野口五郎小屋 T. 止

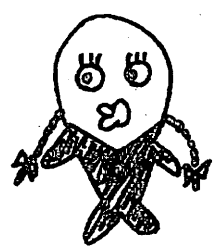
朝、たうたらして、出発が遅れたが、ちゃんとテニ場まで行って
 来た。祖父岳は、かかれた名峰で、360度の、大パノラマ、
 最高である。テニ場で、ゴロン現象、はじめて見れて
 感激。

7/22 (水)

3:14起床 4:40出発 ~ 4:48 野口五郎pk 5:05出発 ~ 5:15 野口五郎小屋
 5:20 TS出発 ~ 6:10 一本 6:30出発 ~ 7:38 烏帽子小屋 8:12出発 ~
 11:30 高瀬 2人着

野口五郎pkで御来光を見る。7+立尾根は長くて長くて、大変だ。

感想: 全日程、快晴で、おきた雨が降たら本当に最悪だから
 な。初めて、WV部員2人、行って、ど〜くらいのもちが不安で、あ、下は
 1つ、う強い、15、21、17、山岳会、女子部員おもしろいかに強い。
 好部員もか、17、7、強く、17、17、11、



中央アルプス 中御所谷 西横川

7/30 (日帰)
 山内、麦谷、島、深沢
 Box - 500 - 駒ヶ根 - 500 - 1500平
 8:00 1500平 橋 ① を行開始
 30m大滝は右側をのびた。



11:05 ① はせへ新道に出る。を行おわり。
 11:35 ② // 巻 - 13:00 ③ 宝剣山荘 ④ 宝剣バスン
 宝剣バスンの際に 置村協の乃々に 助官をうける。
 14:40 ⑤ 山荘 巻
 15:00 ⑥ 千畳敷 ⑦ 中御所道
 17:00 ⑧ 1500平
 沢巻) 自体は、サイルもたす、あ、というまに、終わ、て、ま、
 た、初心者には、ご、ご、な、沢、だが、俺は、も、と、泳、ぎ、た、か、た。
 宝剣山荘に、は、じ、め、登、った、か、人、か、多、か、た。
 下) の、中御所道は、荒、山、で、い、て、だ、る、か、た、し、麦谷は、頭、痛、に
 悩、ま、し、て、う、お、ら、あ、と、い、い、た、も、して、深、沢、は、峠、で、会、
 た、粘、菌、を、巻、き、て、帰、た、ど、も、心、し、た、さ、い、(山内)

縦走合宿 ·メンバー: L.川井, 大木, 岸本, 高橋

コース(計画として)

上高地 ~ ヤリ ~ わし羽 ~ 雲ノ平 ~ 太郎 ~ 五色ヶ原 ~

黒部湖 ~ 赤牛 ~ 野口五郎 ~ 日本海へ

期間(計画として) : 8/1 ~ 8/18 (14+4)

8/1 5:30 ~ 8:20 3:55
上高地 ~ 横尾 ~ 殺生ヒュッテ T.S.

・縦走初日という事もあり、ザックが非常に重かった。槍沢口までにはペースが良かったが大曲りがくつかうと落ちた。

8/2 4:30 ~ 5:45 12:20 ~ 15:25
T.S ~ ヤリ山頂 ~ 刃六岳 ~ 三俣小屋 P.S.

・ヤリ山頂はやはりすごい数の人。山頂往復だけでかなり時間をとられてしまった。肩小屋で「今日で合宿最後だけと晴れてよかったね」というどこかのワンゲルの黄色い声を替に、我々男4人は西鎌を下る。

この荷物に西鎌の下りは非常につらく、古傷のヒキが痛み出した。1年生3人も途中で「切れなからよく歩いたと思う。

8/3 4:30 ~ 5:40 12:55 ~ 16:55
T.S ~ わし羽 ~ 薬師沢 ~ 薬師峠 T.S

・雲ノ平はアルパインチックでなかなか良い。「ここを女の子と一緒に歩きたい」と全員が思い、そしてある男を妬んだ。又、雲ノ平から薬師沢への下りは日が当たらない道で、すべてこわい。ここは下りおもり登りに利用するべきである。

8/4 6:30 ~ 9:05 12:40
T.S ~ 薬師山頂 ~ スゴ~~集~~艇 T.S.

・前日までの様子もみて、1日分の行程を2日かける事にした。コース上で特に問題となるような所はないが、薬師~北薬師は風が強いは要注意。スゴ~~集~~艇ではマツフシに会った。松ワシに行きたかった。後にもJターンを徒走で20日くらいかけて日本海に行くと言っていた。

薬師山頂に、ここを通るいろんな知り合いに向けてのメッセージボードを残しておいたのだが、その後とはなされたらしく、たれにも見てもうえなくて残念。

8/5 4:30 ~ 7:45 10:00
T.S ~ 越中沢兵 ~ 五色ヶ原山荘 T.S.

・途中かすたいい風雨に当たった。気もぬくと体もぬいていかれた。体もガクも思い、きりぬれた。行動時間も短かく、コース上もたいして問題のある場所ではなかったが、1年生にとってはまづい1日だったと思う。

8/6 4:30 ~ 7:10 10:00 ~ 12:30
T.S ~ 平ノ小屋 船脱 ~ 奥黒部ヒュッテ T.S

・この日も全く問題無かった。テニ場に着いてから久々に太陽を見た。前日にぬれたものを全て乾かす。太陽はほんとに気持ちいいものだという事を感した。奥黒部ヒュッテは不少土地のテニ場で、非常に良かった。

平ノ小屋渡し時刻表

但しこれは夏シーズンのもの。

平ノ小屋脱

6:00

10:00

12:00

16:00

17:00

針ノ木脱

6:20

10:20

12:20

16:20

17:20

8/7 3:50 ~ 9:30 ~ 12:25 ~ 15:37
T.S 赤牛岳 水晶岳 野口五郎 T.S

。この合宿の核心部の日。1年生も毎合いが入っている様だ。た。読売新道は樹林帯も長いから樹林帯が終わってからも長い。又、赤牛、水晶間の尾根も歩き易いから長い。赤牛岳山頂で自メラをかまっていたおじさんに、「30分程前に女子高生3人組が水晶の方に向かっていたよ」と言われたかどうかが会えたかった。

この合宿に入ると、はじめて日中ずっと晴れた。野口五郎に着いた時全買 7373 だったから、この時心を鬼にして次のテント場まで行けば良かったんじゃないかと今思えば、天気が崩れるのも分かっていたし。

8/8 4:30 待機 8:20 ~ 15:40
起床 小屋へ避難 高瀬ダム

。朝起きたらすごい事になっていた。テントのフライははかされ、テントは風によって潰されていた。外を見ても自分の山靴が見当たらない。テントを立てなおすが再び風が強くなりテントが壊された。小屋へ避難難し。1時間程待機して下山した。

感想反省

L. 川井

今回の縦走は途中下山という結果に終わってしまった。半年前から計画を練り始め、新人合宿の頃にはもうコースを決定していた。にもかかわらず失敗に終わったのは、自分の体力に村おる過信、準備不足等によるところが大きいように思う。

1年生はよく歩いてくれたしよく修かいてくれた。リーダーの力不足をよくカバーしてくれたと思う。感謝している。来年、復したるものと充実した縦走を成功させてくれるだろう。

山小屋の中で書いた記録を見るところなる。

「テントの破損、ラジオの故障、シュラフカバーの不備、今後台風の接近が予想される事、この先のコースの危険地帯を考慮して下山に決定」

この判断に間違いはなか。たと思ふ。

ただ、読売新道も登り、これか日本海に向けて北上するのみであり、歩くペースも速くなつて来た時だ、ただけにくせしかた。しかしこの山行によつて、自分の中で「山は楽しいもの」から「山は面白いもの」へ変わった事は確かである。あと七倉まで 迎えに来てくれたノグビーありがとう。

縦走合宿 北アルプス部隊 大木ボボ

反省は特になし。40kgのザックにも耐えられたし、4人という少人数なので仕事はみんなよくやっていた。残念ながら途中で撤退することになったが、来年の縦走では必ず北アルプス全山をやりこげてみる。そして今日の川井の考えた黒部湖から読売新道を歩き、赤井岳を登るというような変化に富んだコースを作り、必ず成功させてみる。

今回の私たちの縦走合宿は、結果は失敗ということになったが、私は、申し分ない山行であったと思う。

まず、気持ちの面で、この山行計画が出された時から、日本海と、読売新道が、大きな目標としてあったので、山行前も、山行中も、テンションが下がることがなかった。また、日程の立て方も、無理をしないような日程になっていた。

当日は、私がテニに入、というところを、伝えるのが遅すぎたということも反省している。

山行中は、ほぼ、完璧だったと思う。しかし、レオパッドの袋が何個か破れてしまったのは注意が必要だったが、できなかった。食量の量については、けっこう問題だと思う。四人とも良く食べるから、それだけの量もできなかったが、少くも、それではなかったら、軽量化について以後考えることにしよう。

で、テントが破れた日の事は、いまと比べると、私たちの間に、何かしなかったが、テニ場の情報も手に入れておくべきだった。あと一時間歩けば、風がそれほど強くない所に行けたのであろう。

まあ、目標の一つの読売新道はめけたし、""山行""であった。

川井：北隊 高橋

感想

岸本俊朗(1年)

今年の夏、僕は北アルプスの縦走に参加した。北海道と南
全山その他にも魅力的な計画がたくさん出ていたが、僕は北の
縦走を選んだ。新人合宿で初歩に行、た時、目の前の穂高の向
には日本海まで北アルプスが延びていると聞いて、僕はその向こうを
見てみたいと思った。それから6月に蝶・常念に登ってその向こうを見
今度はその向こうに行、て見たいと思うようになった。

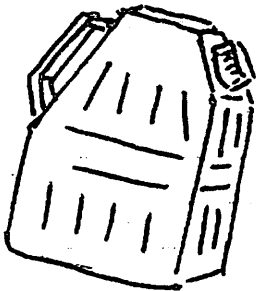
8月1日に日本海に向けて出発した。僕にとっては、見事山、登る山が
全て初めてだったので、毎日新鮮味にあふれていた。新しい地形図を月
くのが二の上をく面白かった。

雨に打たれ、強風にあおられ、寒さにふるふる二の物い山行だったか
山の厳しさを少し知る二ができた。残念ながら完走はできなかったが
内容は濃かった。(と思う。)

暴風雨にあたり、夕の昏、赤牛岳から北アルプスの全貌を見た時、
僕は「ああ、よかった。」と心から思えた。心が洗われるという言葉があ
るが、その通りだった。

男一人で下種話しに花が咲く二が多く、少々さみしい気もしたが、それはそ
で楽しいものだった。来年もまた行く二がある。

おわり



ホ
リ
タ
ニ
ク

風
に
飛
ば
され

と
ニ
リ
た

僕
を
嫌
いに

な
った
た
か
い

(岸本俊朗)

8/2 ~ 8/21 (14+6) 南アルプス全山縦走<夜叉神峠 ~ 黒河内>

L: 田中基樹 (2)
岡本伸也 (1)
深沢遊 (1)

8/2 (土) AM 4:40 天孫 5:40 出飛 ~ 6:11 一本 6:35 出飛 ~ 7:11 一本 (夜叉神峠) 7:40 出飛
~ 8:10 一本 (2001) 8:40 出飛 ~ 9:30 一本 (下龍頭山) 9:50 出飛 ~ 10:40 一本
11:10 出飛 ~ 11:45 一本 (葛平) 11:52 出飛 ~ 12:15 一本 (南柳室小屋) 12:45 出飛
~ 13:55 薬師岳 peak 14:45 出飛 ~ 15:20 観音岳 15:45 出飛 ~ 16:20
観音岳と地蔵岳の陵線上 T.S.

体調が悪く、1P目で7P、7P、7P。最初、食中毒か列にかと
思っ、ロビリされた。薬師岳はふじな麓の山で、見知らぬ
せと写真とる。

8/3 (日) AM 4:22 起床 5:35 出飛 ~ 6:06 地蔵 6:32 出飛 ~ 7:23 一本 7:33 出飛 ~
8:45 高峰 0712 目apek 8:55 出飛 ~ 9:45 一本 9:57 出飛 ~ 10:16 早川小屋
10:53 出飛 ~ 11:39 一本 11:53 出飛 ~ 12:21 一本 12:46 出飛 ~
13:32 阿久戸峠 14:02 出飛 ~ 14:52 栗沢山 15:10 出飛 ~ 16:03 仙木峠
16:15 出飛 ~ 16:41 仙木小屋 T.S.

早川小屋まで、水が3人で1.5Lしかなく、おんたバテバテ
さらに早川小屋で、急激に多量の水を飲んだため、その後
下腹が痛く、阿久戸峠から見るが、入にまかれた甲斐駒のテラスの
様であった。写真と調子に乗って10枚ほどとる。

7/4 (月) AM 4:00 起床 5:06 出発 ~ 5:58 一本 (駒沢峠 peak 手前) 6:10 出発 ~
 7:02 甲斐駒 peak 7:30 出発 ~ 9:06 仙丈小屋 9:50 出発 ~
 10:20 一本 (飯倉小屋) 10:24 出発 ~ 11:15 一本 (北沢峠 三合目) 11:30 出発
 ~ 12:15 一本 (五合目手前) 12:28 出発 ~ 13:10 小松原入口 13:22 出発 ~
 14:08 小仙丈 peak 14:28 出発 ~ 15:09 仙丈避難小屋 T.P.

甲斐駒は、非常にスローペースに登り大変満足。後の北沢峠の登りも、
 15:00 ころからペースで登った。小仙丈の peak まで 10:15 ころペースに
 カンパニを分けても行った。北沢の尾根は、よく整備されていて登りやすい。

7/5 (火) AM 3:00 起床 5:14 出発 ~ 5:36 仙丈岳 peak ~ 6:03 仙丈避難小屋 ~ 沈黙

か入っていて、ほぼ全明をくぐらざるにテントの中でしばらく待機する。
 仙丈の peak に立ったのは、11:00 ころ、最大瞬間風速 35m の暴風雨で、
 やむを得ず沈黙した。

7/6 (水) AM 3:00 起床 4:17 出発 ~ 5:10 大仙丈 peak 5:20 出発 ~ 6:10 東平野前 6:22 一本
 ~ 7:10 一本 (伊那荒倉岳前) 7:20 ~ 8:10 一本 (横川岳前) 8:20 ~ 9:20 一本
 (西保小屋) 10:00 出発 ~ 10:50 一本 (左保峠合) 11:00 出発 ~ 11:50 一本
 12:00 出発 ~ 12:50 一本 13:00 ~ 13:50 一本 14:05 出発 ~ 14:45 北岳屏小屋
 T.P.

西保小屋までは非常にペースで登り、左保で誰か一人が、雪に落ちて
 40分ほどあった。今から 1200m up する前に、1人がたまたまと思った。
 テントは安定した所に設置した。北岳の登りは、ペースが加わらず
 思ったよりペースが悪く、これと、か入っているときの体感の力加減は、北
 岳のペースアップが、かなりいい。

9/1(木) 泥殿

深沢の体調が悪く、又、天気もあまり良くないので泥殿とした。
石川の土木工にちなんで小屋の行進も考えた。小屋で物を食べた
のは初めてだ。

9/2(金) AM3:30起床5:50出発~6:00北岳山荘~特検~泥殿

肩、小屋で休。風が強くなるので、出発後、稜線に出たところから
風。小屋に引きかえすのも、いやなので、いざ北岳山荘まで行って様子
を見た。川に近づいたら、10:00泥殿とした。この日は、最大瞬間
風速40m以上で、シニアがほとんど、体がふるえたりされる。ヤカンが
テントから飛んできた。

9/3(土) AM3:00起床4:20出発~5:00特検5:35出発6:25一本6:35出発~
7:20農鳥小屋7:30出発~8:00農鳥コスト決戦で農鳥小屋出発~
8:50一本9:00出発~9:55出発~10:45一本11:00出発~11:50出発12:00
~12:50一本13:00出発~13:50一本13:57出発~15:00雪投T.R.

風が強すぎて、三峰も農鳥もコストでまず。ここは2800m以上のpeak
とすので踏む要は、くずされる。稜線工にいるのは、カインで、ここは
樹林帯へに下。コストのむつかしさを知った。農鳥小屋は
エスキモーの村落みたい。さらに農鳥小屋のケジメは、ムクク。

8/10 (日) AM 4:00 起床 (特期) ~ 10:10 出飛 ~ 11:00 一本 11:10 出飛 ~ 11:40 塩見
岳 peak ~ 12:23 塩見小屋 一本 12:46 出飛 ~ 13:30 一本 13:40 出飛 ~
14:50 一本 14:55 出飛 ~ 15:10 三伏小屋 T.S

この日の朝は、水の滴で目覚めた。テントの中に水がたまっている。シラフが
びしょ濡し。カシの毛をビショビショ。外にでる。7ライの毛が一本だけ
テントにまっかいて、7ライが風でさくさくかいていた。7ライの入口を
こわれていた。お最高であった。風と雨のふりこりて山をcutする。
お、おまじやないか行くとおまじやないか。三伏小屋で一軒がおまじ
やないか。ボツボツ言っていた。おまじやない!!

8/11 (月) AM 3:00 起床 4:19 出飛 ~ 5:05 一本 5:20 出飛 ~ 6:25 床小川岳 peak
6:40 出飛 ~ 7:30 一本 7:40 出飛 ~ 8:30 一本 8:40 出飛 ~ 9:20 高山
9:50 出飛 ~ 10:40 一本 10:50 出飛 ~ 11:40 一本 11:50 出飛 ~ 12:40 一本
12:43 出飛 ~ 13:02 粟岳 peak 13:40 出飛 ~ 14:50 荒川小屋 T.S

久しぶりに晴れた。晴れたら、やばい山はいいのだ。いいでま
いりな。か、T.S で大宮公に三伏にふりかえりて高れりて
ニカカカカ。小屋のトに貸りる。

8/12 (火) AM 4:20 起床 6:00 悪沢岳 top に出飛 ~ 7:30 悪沢岳 peak 7:50 出飛 ~
9:00 荒川小屋 9:29 出飛 ~ 10:30 一本 10:40 出飛 ~ 11:20 赤石岳 peak
11:35 出飛 ~ 12:25 一本 12:35 出飛 ~ 13:27 百向洞 13:37 出飛 ~
14:28 大沢岳 peak 14:32 出飛 ~ 15:10 中盛丸山 15:20 出飛 ~ 16:44
免御難小屋 T.S

この日は、聖小屋に行く予定であったが、かたりに来て断念。ふりかえり
て、予備倉の穴をたいて、(倉)。ニニニ。ニニニ。ニニニ。ニニニ。ニニニ。
生かすも、文をり。心にかたりに、林をかたりに、かたりに、かたりに、
分れた。冬山は生死に、かたりに、かたりに、かたりに、かたりに、

D 感想

15日という長い山行がつかれ過ぎて、去年はポール今年是、ゴツェルも失物というヒサな縦走かつづいてるけれど、ついていない。肉体的には、たいていつかれたから、毎日のように降る雨には、精神的にやられてほう。今回、雨で足踏んだのは、2600m以上のトレッキングをしたからというの。合衆宿のたか、今は、夏合宿で成果が出たほう。

田中基樹(2)

出発前までは体力的に不安でしたが、行ってみれば精神面でやられました。本当に最後の最後までつらかった、この14日間という人生初めての馬乗車は一生いい思い出になります。

岡本伸也(1)

最初は30kg以上ははじめてたほうなので、こんな重い物を背負って登れるのか不安だったが、けっこう楽に3日間は晴天のうちに登った。しかし天気がくづれたからは精神的にまいった。かかとがむいたり足が痛くなったりその他にもいろいろなお悩みがあった。この縦走を通して自分の限界がずいぶん下げられたと思う。最後の大無間帯とのあたりはやつておもしろかった。

深沢遊(1)

北海道 大雪 十勝 日高 縦走

日程 8/4 ~ 8/21 (10+8)

メンバー: しあ、福士、大須賀、島

8/4 9:45 麦谷宅発
11:30 札幌駅発
1:30 旭川駅着
2:35 旭川駅発
4:20 層雲峡着
5:00 ローゴウエイ乗車
7:00 黒岳山頂着
7:20 黒岳石室着

北海道で山のガイドをやっている友彦(通称エテ)が迎えに来るのが遅れ、彼の会社に寄ったので出発が遅くなってしまった。1Pで登れるほどには荷物が重いせいか、2Pがかかってしまい、結局テント場に到着したのは7時を過ぎていた。島は暗く怖くて熊が出て来ないかとびびっていた。その晩寝静まった頃、「ササヤー」と音がするので何だ何だと目覚まし隣のテントの人が「キノネヒテント破られてますよ」との知らせがあり、パニックに陥っている。キノネはテントの外から目敏く昼めしのクッキーをテントに穴を開けて食べて行った。その後また度ほどの襲撃があったが、いよいよ寝りに着くことができた。初日から北海道の恐ろしさを知らされた。

思

8/5 7:25 石室発
8:15 雲ノ平
9:15 北鎮分岐手前
10:10 中岳分岐少し上
11:20 北海岳
12:10 北海岳・白雲岳コル
1:00 白雲分岐
1:40 白雲避難小屋

雨の降る中、団装分けをして出発の準備をみるか 昨晚外に出して
おいたガスがたない。辺りを捜すとテントから30m程離れたところに
転がっていた。ギツネの作業に悪い日はと朝から拍子振られる。
横線に出るとものすごい強風で吹き飛ばされそうになりたから
も歩いて行く。とてきまなく旭、北鎮、白雲ロストンは省略、
白雲避難小屋へ何とか着くことができたが、風でテントが潰された
た人たちが続々避難小屋にやって来た。

8/6 3:00に起床するが強風。ガスのため行機。12:00頃
暗れ間に見え始めるが、強風は続き、結局 氷瀑足。

8/7 3:50 起床
5:20 発
6:10 高根山原
7:10 忠別岳ニセローワ
7:50 忠別沼
8:45 忠別岳
9:45 忠別避難小屋

朝 またしてもガスがキツネにまていかれていった。もう怒る気もした。ようやく青空が見えたと思いきや、空に浮かぶビルに大震。忠別山頂で雨が降りだし、雨の中スイカを食べる。結局、9日にも忠別の避難小屋に泊まることになった。

8/8 3:00 起床
4:30 発
5:40 五色岳
6:45 化賞岳
8:10 ヒサガ沼、化雲分岐
10:15 北沼

朝からガス。視界ほぼなし。景色もクソもない。北沼に着いてから雨が降り出す。テントサイトがあつたので結局北沼に泊る。天気回復見込なし。

8/9 沈滞

8/10 11:00 北沼登

11:30 南沼

11:50 トムラウシ山頂

12:10 南沼

16:15 トムラウシ温泉

朝の天気図を基いて今後とも天気の回復見込みなしと判断。天候で予備日も使い日高には行けなかつたので、壬午バケーション^Q。下山を決定する。下山途中先頭を歩いていた福エは熊を見る。熊はすぐ逃げて行ったが、その場所を通過した後、熊の「ウオー」という雄叫びが聞える。鳥は超ビビって笛をピーピー吹きながら歩いていった。その後は無事トムラウシ温泉に着くことができたが、改めて北海道の恐ろしさを知った。

<感想>

今日の山行のために下調心を万全にしたにも関わらず天候のため縦走を成功できなかったのは非常に悔しい思いがある。この縦走中晴れたのは3時間程。呪われた山行としか思えない。愛しの日高よ来年まで待っていてくれ。

大須賀 友一

夏の紙走の反省と感想

<反省>

1日目の夜に食料をテントの中の端に
並べておいた。キノネにテントを叩かれ
れて、1人分の昼めしをかじられてしまっ
た。北アルプスなどではこのようなこと
はなかったのでもったいなかった。

それと、ホワイトがソリンをテントの外にお
いていたら、キノネに20m位持ってい
かれた。朝ないことに気づいて、探して
あったからよかったものの、本当になくなっ
ていたら大変なことになっていた。

<感想>

太陽を見たのは一週間のうち約
2時間位というほど雨とガスが
ひどかった。そのためほとんど景色を
見る事ができなかったことが一番の
心残りだ。後は30才になって、エキノコッ
クスで死ぬことがないように祈るだ
けである。

縦走

北ア 立山三山～上高地 '97 8/10～8/18

[メンバー] 中島, 川村, 佐々木

[記録]

8/10(日) 7:00 扇沢発 = 9:05 室堂 霧 / 9:15 発 ~ 10:00
雷鳥沢橋 ~ 11:45 別山乗越 ~ 12:25 知沢小屋 T.S. 霧時雨降

初日、天気悪く、知沢までいくが翌日の知ヒストンは断念。

8/11(月) 4:20 起床 / 5:35 発 ~ 6:20 別山乗越 ガス ~ 7:00 別山
~ 8:32 富士の折立 ~ 8:55 大斗山 ~ 9:20 雄山 ~ 10:05
一ノ越 ~ 13:57 サラ峠 ~ 14:44 五色ヶ原 T.S.



さし入れに貰ったヤシの突か 重たした。T.S.で周囲のゲルマに
飲むのを手伝ってもらった。

8/12(火) 4:00 起床 ① / 5:30 発 ~ 6:44 鷲山 ① ~ 8:35 越中沢岳
/ 9:00 発 ~ 10:30 スゴの頭 ~ 12:25 スゴ乗越小屋 T.S. ①

T.S.では松ワシと遭遇。ワシ用話 も覚えた。「2-4」は2時
起床 4時発らしい。

8/13(水) 4:00 起床 霧 / 5:35 発 ~ 8:30 北薬師 ② ~ 9:30
薬師岳 ~ 11:30 薬師峠 T.S. ①

T.S.ではフエインに遭遇。リダの人達も呼んで一緒に少し酸
味の効いたマーボ豆腐を食べた。

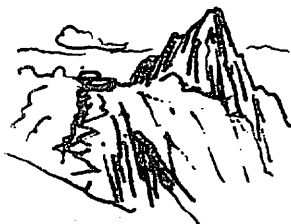
8/14(木) 3:00 起床 / 4:15 発 ① ~ 6:20 北の保岳 ~ 6:46
赤木岳 ~ 9:28 黒部五郎岳山頂 ~ 11:25 黒部五郎小屋 T.S. ②

双穴小屋まで行かのは断念。T.S.はまたら蚊の多い所であ
た。

8/15(金) 5:00 起床 / 6:17 脱 ◎ ~ 8:09 三保蘆葦岳
 ~ 9:38 双穴岳 ~ 10:50 双穴小屋 ◎
 下F.

五色ヶ原 下F から大東文化木ワシビルが一掃であった。
 午前中に行動停止したので少々物足りず。

8/16(土) 2:30 起床 / 3:45 脱 ○ ~ 7:20 千代木越 ~ 8:35
 檜の肩 ~ 8:55 檜 ○ ~ 11:15 中岳 露 ~ 13:20
 南岳山荘 下F.



西鎌は予想外に速かった。檜は大混雑、大渋滞。
 南岳付近で 佐々木が 日射にやられ、小休止。とって
 南岳山荘は思いもよらず営業している。0.5L 350円の
 ペットボトルで水を売っていて、諸々の事情により 8本も
 買ってしまった。



しかし、ここで来ると、もうすぐ上高地という気になる。

8/17(日)

5:25 脱 ~ 9:34 北穂小屋 ○ ~ 12:47 洞沢岳
 ~ 13:18 白生小屋 下F. ○

大サレトは結構恐かった。北穂小屋から洞沢を見た
 時、ついにここで来たと思った。この日の夜、月が異様に
 明るく、白生小屋は夜まで人が行き来していた。

8/18(月) 4:00 起床 ○ / 5:10 脱 ~ 5:48 奥穂高岳
 ~ 8:15 前穂 ~ 11:35 岳求小屋 T ~ 13:30 廿天 ○

前穂: 始り下りてくる時、川井、博野、川、岸本の3人と遭遇。
 年輩の人が近くにいて、遠くの岸本に向かって「オー」と
 佐々木が叫んだため、一時騒然となる。

(反省) 忘れ物は縦走の定番と言いたくはないが、ツェルトと、3日目の食料を忘れた。あと、もう少し日程的にちぎられたのではと思った。

(感想)

(中島) 初めの市だけ以外、全般的に好天で恵まれていた山行であった。自分としては歩いたことのないコースだったので新鮮土があって良かった。あと、土入れにキレット(はく)フードを入れるのはせめましよう。足踏み健康器は重宝しました。1年生天狗図は書けるように、去年に比べて、ハード土が無かったのを感心する。剣に行けなかったのは残念だった。でも予定通りのコースを皆んなで歩けたのでよかった。

=感想=

楽しかったけれど、一度、体調を崩してしまおうし、体力的にもまた"また"2人に迷惑をかけてしまいました。今回の縦走で思い出深い? ことが2つは、キレットを通る時、生きて帰れるか、ものすごく不安だったこと。もう一つは、臭い臭いといいつつ、キレイな上高地を歩き、温泉にたどりついて入れた幸せ。山から下りてくると、つくづく、日常生活のなんでもないこと! 幸せを感じることが出来る。おふる、万歳!!

佐々木 恵子

感想

川村 朋子

今回の山行は、ひじょーに楽しいものでした。初日から2日目までは雨でしたが、その後は佐々木庄(?)のおかげで連日晴天でした。佐々木庄様々です。山行リーダーは、ほんとにお疲れまでしたね。子供が2人もできちゃってさ。(笑)。また行きたいですね。

南アルプス縦走合宿 (光~仙丈) メンバー 野田 喜田 日高

8月10日 (快晴)

6時: 部室発 11時: 易老渡 11時45分: 発 12時15分: 一本 12時25分 出発しようとした際に喜田がザックを背負い損ねて転倒し、尾てい骨を強打して歩行困難となる。易老渡まで引き返すことにする。
13時25分易老渡着 地元下山者の車に無理矢理乗せて頂き、南信濃村の病院で見てもらったところ骨折の疑いがあるという事なので喜田は松本に送り返すことにする。

近くの公園にて野宿。夜中に喜田の呻き声がこだましていた。

11日 (快晴)

11時30分昨日に引き続き川井に来てもらい、野田、日高は易老渡へ、喜田は松本に送りかえしてもらう。

以下野田、日高パーティ

12時30分易老渡発 14時40分面平T・S

12日 (快晴のち雷)

3時起床 4時10分発 6時45分: 易老岳 8時45分: 光岳 ヤシの実を食べる。なかなかイカしてる!
9時半: イザルガ岳 11時半: 易老岳 15時15分: 茶臼小屋 富士山の眺めが良くいいところ。夜、差し入れの缶詰をたべるが異様にまずい、だがせっかくくれたものだからと仁義に燃えてすべて食べた。後で聞いたらキャットフードだった。

13日 (晴れ)

3時起床 4時40分発 途中道を間違える。6時半上河内岳直下 8時20分聖平 少し手前で基樹達に出会う。いい目をしていた。9時20分聖岳の登りの途中ではあるが、体調がすぐれないみたいであるのと、百間洞まで天場がないのとで聖平まで引き返す。10時聖平にテントを張る。

14日 (晴れ)

3時起床 4時半発 7時: 聖岳山頂 8時兎岳山頂 11時40分: 大沢岳山頂 13時百間洞 荒川小屋まで行くと思っていたけど無理っぽいのでここを天場とする。

15日 (小雨)

3時起床 4時発 7時: 赤石岳山頂 8時40分: 荒川小屋 11時: 中岳山頂 12時悪沢岳山頂 13時50分: 前岳山頂 16時: 高山裏T・S 前岳からがうんざりするほど長くほとほといやになった。

16日 (ガス)

3時起床 5時発 8時半 小河内岳山頂 博多さんにももらった水のいらぬい何とかでシャンプーをする。
10時40分三伏小屋 お花畑がとてもきれいでガスの中というのもあり幻想的な雰囲気を感じ出していた。
13時47分: 塩川小屋 バスは9時と13時40分の二本しかなく、つい7分前にバスは出ていったばかりだった。日高とブーブー言いながらテクテク歩いていると車が拾ってくれる。人の情に触れた山行でした。
15時半伊那大島駅

反省

計画の日程がきつく、日程どうりになかなか進まず、終始苛々して日高には苦い思いをさせてしまった。技術的には問題は無かったと思うが、怪我人を出してしまった。休憩場所にはもっと気を遣わなければリーダーとしては失格。事故はいつ起こるかわからない、常にそれを念頭において行動しなければならない。

南信濃村和田の方、喜田骨折の時はお世話になり、有り難うございました。

南アルプス縦走感想

No.

Date

日高

今までで一番山が嫌になって、一番家に帰りたくなった山行でした。

荷物が軽いにもかかわらずバテまくり、その度に野田さんのほげましの言葉にムカついて(逆ギレですが)登りました。

何でこんなに山がしんどいだけで全くおもしろくないのかとか考えながら登りました。それはやはりこの合宿までに新人合宿しか聞いていない。というのが大きかったと思います。

野田さん曰く「山の体力は山でしかつかない」というのは本当だと思います。テント生活なんかも含めて、やはり山に入ってる時間が多ければ多いほど山を楽しめるんじゃないかなと思います。

今この2人キリの合宿を考えてみると、僕にとってはいい合宿でした。バテたり、怒られたり、山がめんどくさく嫌になったり、何で山岳会にいるのか考えた、人生について考えた、とてもいい経験になりました。

縦走合宿の中では一番楽な山行だったみたいですがこの合宿では山の厳しさというのをたまたまこまれました。

冬山はすごそうですが頑張ります。

野田さん「ありがとうございました」そしてお世話になりました。

屏風岩東壁 8/3~5 (2+1) L 花谷 原田.

8/2 深夜サマ天につく

8/3 サマ天の居心地の良さや 天利天節の良さ(Tの事から来殿)

8/4 3:30 サマ天 ~ 4:30 横尾 5:05 〇 ~ 6:40 T4 取付 7:05 〇 (雲積(1+))
~ 8:05 T4 8:15 〇 ~ 11:50 終了 ~ 14:00 取付A 〇

15:20 横尾 ~ 16:30 サマ天A.

雲積はお30. 屏風初体験の花谷は、岩トシ(17. T=0の. 人王壁(ぼり))
Tのたので、プレイシャーに負けはると、危何にリードしてさうという惜け
たいのた。た。苦い思い出した。サマ天からの山行は根性か。サマ
天は居心地が良すぎるた。

8/13~15 瑞牆山 一面岩 末端壁 1 正面壁

L 花谷 中嶋 基志 (08)

8/13

7:15 松本 ~ 10:30 B.C 10:50 〇 ~ 11:50 末端壁

[本日 1000ヤス (5.106 ~ c)]

は、3リ言、てプレイシャーショックだ。T。日本にこんな所がある、たとは……。鳥取
はサクサクリードしてしま、余裕をうた。T。Tのほ取付まで。取付から
5分くらいて、ツボ。その後 100回くらいのT=ショの後、完登。死にそうた。た。

2年目 調和の幻想 (5.9)

プレイシャーからハンドブック。見T目軽そうた。慣れたといつら。T=ショ
して、T。今日は楽しめた。

17:00 B.C 帰天

8/14 不動沢の行き方を教えてもらう。雨で登る。

8/15 ねは。Tの雨で止まらず帰る。

瑞牆山は日本最高だ。末端壁のクランクは美しい。1000ヤスは7リ-2
登らそうになった。あ、未知の世界がある不動沢が一度は行ってみたい。
何とやらより面白いそうた。中嶋さんと登ると短期間で得る知識が
大きい。Tの知識になった。

北岳バットレス 9/3~5 (2+1)

CL は 9月 2日 9月 11日 (1), 田中基樹 (2), 中島辰哉 (2),
 表谷大郷 (2), 日高弘次 (4), 高橋誠二 (1),
 大木信介 (1), 岸本俊朗 (1), 大須賀友一 (1)

9/3 松本 8:10 - 広河原 14:00 ~ 16:00 白根御池BC

9/4 越後 3:30 BC 500 ~ 6:10 取り付き

[原田・日高・岸本パーティ] 第4尾根

[表谷・大須賀パーティ] 第4尾根

[田中・大木パーティ] ピラミッドフェース

[中島・高橋パーティ] 下部7721 ~ Dが川奥壁(?)
 ルートを荒開きして Dが川奥壁はほとんど巻く。

北岳 15:30 ~ 17:00 BC 18:00 ~ 19:00 広河原
 (集合)

総括: 平日之人も少なくて安全に登れた。1,2年毛
 夏合宿の後と1行ニヒモあつて安心に2回2194下。

はらた。

奥秩父・奥多摩縦走 '97 9月10~16日 (-19日予備日)

LA 大木 B. エレの隊長 ティー7 岸本. 三等兵・日高

9月10日 4:40 家起床
(晴小) 8:30 瑞牆山荘
9:00 出発
9:50 富士見平小屋
ピストン 11:40 瑞牆山山頂
1:05 富士見平小屋
1:20 大日小屋 TS

初回は一年生だけの山行というので
出発前夜 宴会になってしまい、3人
は寝不足のまま出発するようになった。
反省。出発前夜はしっかりねよう！

9月11日 4:00 起床
(晴小) 5:35 出発
6:25 大日岳
8:55 五丈岩
9:05 金峰山山頂
11:10 大砲小屋 TS
ピストン 12:30 大奥千丈岳
2:40 大砲小屋

五丈岩は7-70に登るまでかなりおい。
思っていたより早く金峰山に着いたので
甲武信岳まで行くことにしたが、大
砲小屋で日高三等兵が弱音を
はかめて予定通り大砲小屋で
テントを張る。
奥秩父は苔がとても美しい、我々
は見たことした。

9月12日 3:30 起床
(曇り) 5:00 出発
↓ 5:45 国師岳
(夜大雨) 11:15 甲武甲岳
1:45 笹平避難小屋 TS

樹林帯がとても美しい。静かな山
歩きが好きな人にはお村のコース。
避難小屋も多く、全体をとおして
一回しかテントを張らずに済んだのも
魅力。台風19号接近中。

9月13日 3:30 起床
(曇り) 4:30 第一次出陣
4:32 撤退
5:00 第二次出陣
5:40 西破風山
7:30 妙坂峠
9:50 雁峠
10:20 雁峠山荘 TS

朝、ガスが濃いため明けなるとまで
待つことにする。予定は将蓋峠
だが、雨が降りそうなので
小屋に泊りたいと、LA 大木 B. と
日高三等兵が強く要望し、民主主義
により小屋泊り決定。もちろん無
人小屋さ。だから、棒♡
午前中に行動を終了して超暇
である。台風19号なお接近中。

9月14日 3:50 起床
 (ガス) 8:45 持蓋峠
 3:15 雲取山避難小屋 TS
 巴士 3:20 雲取山

9月15日 4:30 起床
 (大雨) 5:45 出発
 6:05 雲取山荘
 7:40 芋の木ドク
 8:40 長沢山
 1:00 一本木避難小屋 TS

9月16日 6:15 起床
 (小雨) 7:35 小屋発
 8:55 東日原
 奥多摩で温泉に入る

前日の分をとりもどすため
 ちよと長い行程。この辺りは
 多摩川の源流が多く、
 丸太橋がかかっている。雨のときは
 危険。台風19号 5日に接近
 した大木木道の希望により、本人未踏
 の長沢背稜を歩く。大雨のため
 止まって休むと寒くてじえろにな
 りるので4時間歩き続けて
 小屋に着く。先客3人のおじい
 が快く迎えてくれた。

川苔山から奥多摩駅に下山打
 予定だったが雨の中登りほどの
 山ではないうじで ESCル
 で速下山。

〈全体を通じた反省・感想〉

一年同志の山行であつたが なるの問題もなかつた。エッセンも成功
 したし、楽しくのんびり歩けたと思う。コースも樹林帯と苔が美しく、
 すばらしかった。雨やガスがぬい山行ではあつたが、それほど気になら
 なかつたし、小屋泊まりが多く、登山が好きな人には最高のコース
 だと思ふ。

9/13~14 (1+1) 明星山 P6 南壁

L. 田中 基樹(2)。
山内 哲文(08)

4:00 Box 出発
7:00 取付まで
7:30 IP目で下降開始
9:00 B.C

取付まで雨がパラパラはじめ、IP目でやむなく下降。
明星には、4回ほど至っているかまた一度も登っていない。
いつか登るのてあろうか。

丸山東壁 緑ルート

日程 9/16 ~ 9/20 (4+1)

メンバー: 上巻谷、佐々木 大輔 (7ルビアンツアーリストガイド)

9/17 5:00 扇沢トロッコ乗車
5:20 黒田ダム路
6:10 内蔵1助谷 B.C.着

9/18. 4:30 起床 ^{カムのため} 荷機
6:30 B.C. 登
7:00 取付着
7:20 登はん開始
10:15 3P途中雨のため 懸垂開始
12:00 B.C. 着
5:30 黒田ダム着

台風通過のため2日の登はん日の一日を削って17日に入山にした、丸山東壁は非常に近い。B.C.まで30分、IPから取付まで20分である、後継行さえあれば絶好の岩場になろう。三日間トロッコまでしか登れなかったが、日反と登るのは楽しかった。
^{雨のため}

9/20 ~ 9/22 (2+1) 明星山 P.6 南壁

- L. 田中基樹 (2)
- 花谷泰広 (3)
- 高橋誠治 (1)

9/20 4:00 BOX 発
 7:13 取付点 (左岩稜ルート)
 12:45 終了点
 14:15 B.C

左岩稜ルートは高感度あり。ハンマーのAIがビビってて、おもしろい。
 川上工部のツリシ帯はもう付た。

9/21 8:00 起床
 9:15 出発
 9:30 取付点 (左フェースルート)
 15:40 終了点
 16:50 B.C

左フェースルートは、右エドワーズエッジよりビビったため、ヒール
 岩がむく。行くにはおもしろい。

下)廊下

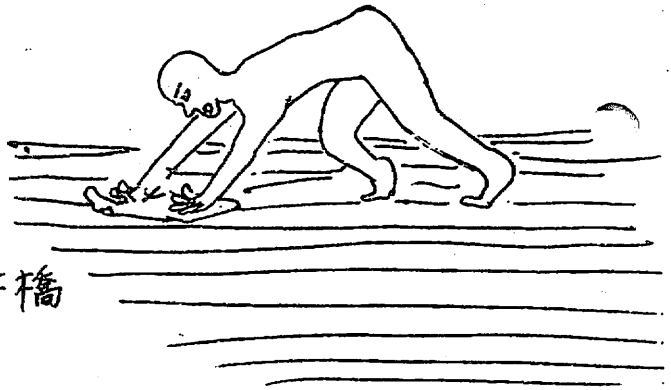
10/10 ~ 10/12 (2+1)

メンバー: L 麦谷, 川井, 中島



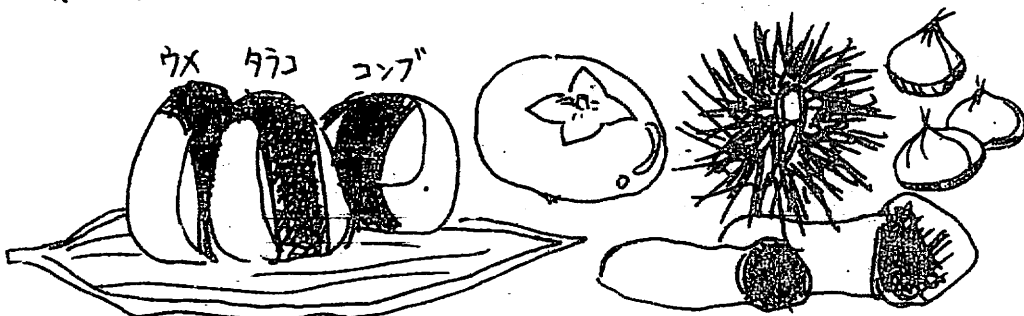
廊下まうじにはがむ 麦谷

- 10/10
- 5:30 Box 発
 - 8:00 黒部第四ダム発
 - 9:05 内蔵ノ助 出合
 - 10:10 鳴沢 近く
 - 11:40 黒部別山谷 着発
 - 12:10
 - 1:00 十字峽
 - 3:15 第四地下発電所下橋
 - 5:00 阿曾原小屋
 - 8:30 着床



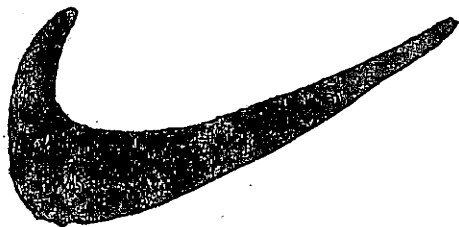
- 10/11
- 6:30 起床
 - 9:00 阿曾原小屋発
 - 12:00 志合谷
 - 2:20 樽平着

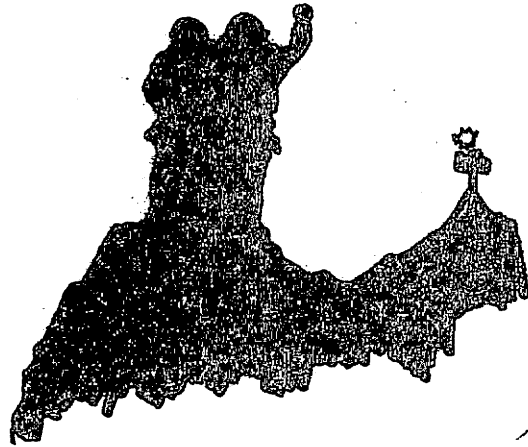
久しぶりに充実した山行をした気がした。人がうんざりするほどいたが、ふたつら長い道も変化に富んでいてあきを感じさせなかった。切り立った水平歩道から見る黒部渓流。長さ150メートル真暗な志合谷トンネル。奥鐘山木岩壁。それに紅葉がさらにかかり廊下歩きは楽しくて楽しくてたまらなかった。来年もう一度行きたい。



～中止になった山行～

	<山行>	<理由>
6月	錫杖岳鳥帽子岩(28)	雨
	奥秩父沢登り(28~)	雨
7月	南アシライ沢	雨
	釜の沢	台風
8月	錫杖岳鳥帽子岩	メンバーの都合
9月	白馬～日本海	雨
	北穂高滝谷	メンバーの都合
	扇風岩 東壁	台風の接近
	ヒッゴ-沢	リーダーの都合





Shinshu university

Alpine Club

編集: はらだ. こばやし. きしもと
やまうち

発行: 松本

表紙: きしもと

1997.10.29